

PERO'S

ステーション



第69期 中間のご報告
(平成18年4月1日～平成18年9月30日)



東映アニメーション株式会社

豊かなエンターテインメントを創出するアニメ市場

～アニメーション市場の動向・拡大について～

日本のアニメーション製造事業規模は、5年前と比較して約1.5倍の1,239億円と、順調に成長を続けてきました。その背景として、急速に進むデジタル化があげられます。デジタル化は、映像のクオリティの向上や製作工程の効率化による製作本数の増加を実現し、デジタル化による多

チャンネルへの対応も可能にしました。また、DVDやインターネットなど新しいメディアや市場が生まれ、日本のアニメーション市場はさらなる拡大が見込まれています。また、デジタル編集により海外展開も容易になり、海外での評価はますます高まっています。

ワンソース・マルチユースで 展開するアニメーションビジネス

～アニメーションビジネスと東映アニメーションの事業領域について～

映像製作・販売事業

65%

著作権事業

25%

関連事業

10%



～走りだす夢の先に～ **TOEI ANIMATION**

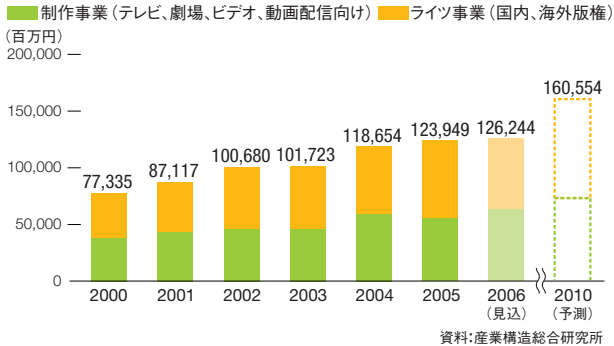
アニメーションは、テレビ放送や劇場公開に加えDVD・インターネット・携帯電話に玩具・衣類・文房具、そしてミュージカルやジャンボジェット機、さらには町おこしなど、まさにワンソース・マルチユースでさまざまなビジネスが生まれ、その広がりは無限ともいえます。近年、急速なデジタル化によるメディアの多様化が進んでおり、収益拡大の機会がますます増えています。

世界に誇る企画製作力、展開力、 豊富なコンテンツ

～東映アニメーションの強み～

創立以来50年間作品を創り続け、数々の名作、ヒット作を世に送りだしてきました。その数は、映画185本、テレビ170作品、総話数約9,400話を誇り、日本最大・世界有数のコンテンツ保有量です。また、製作の全工程を自社グループ内に擁し、ノウハウの豊富なスタッフによる業界随一の企画製作力が、今日も名作、ヒット作を生みだしています。さらに、当社は作品づくりだけでなく、作品と連動した著作権事業や関連事業、世界中に日本のアニメーションを広める海外事業など強固な事業展開力を有しています。

国内アニメーション製造事業規模



海外でも同様に展開



事業概要

当社はアニメーション作品を製作し、国内外の各種メディアに販売する映像製作・販売事業を中心に、豊富なキャラクターをもとにさまざまなメーカーに商品化の許諾を行う著作権事業、キャラクター商品の企画・開発を行う商品販売やキャラクターショー、ミュージカル公演など各種イベントの企画・運営を手がける関連事業の3つの事業を展開しています。

Web・
携帯

テレビ
放送

ビデオ・
DVD

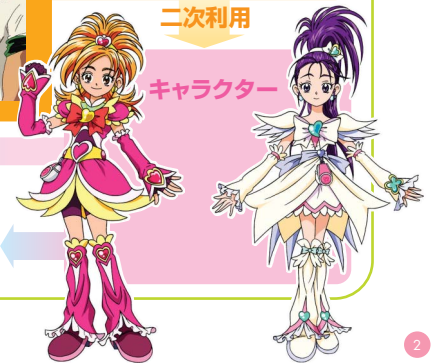
劇場
公開

アニメーション



二次利用

キャラクター



イベント



商品化



株主の皆様へ

当中間期の業績につきましては、 期初予想を達成いたしました

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げますとともに、平素のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

今、当社を取り巻く事業環境は、大きな変革の時期を迎えようとしています。少子化やアニメ全般におけるテレビ視聴率の低迷など、厳しい状況が続く半面、ヤング層向け市場の拡大、地上波デジタル放送「ワンセグ」サービスの開始やインターネットによる映像配信など、新しいアニメーションビジネスの拡大も期待できます。

こうしたなか、戦略的に事業展開した結果、当中間期は前中間期と比較して減収減益となったものの、期初に発表した連結売上高100億円、連結経常利益19億円という業績予想を達成することができ、当中間連結会計期間の売上高は101億10百万円、経常利益は19億37百万円、当中間純利益は10億82百万円となりました。

海外市場や新規事業に注力し、 さらなる事業の拡大を図ります

当社では、激変する事業環境において、ますます重要性を増している海外市場に対し、グローバルな観点からマーケティング・戦略立案を推進できる組織の構築が急



代表取締役会長
TOMARI TSUTOMU

泊 懋

代表取締役社長
TAKAHASHI HIROSHI

高橋 浩

務となっています。そのため、現在稼働中の海外現地法人（香港・ロサンゼルス・パリ）に加え、7月に今後飛躍的な成長が期待される中国・上海に駐在員事務所を開設しました。組織面での強化だけでなく、より一層の作品のグローバル展開を図るため、海外企業との合作にも積極的に取り組んでいます。

さらに、アニメーション事業とシナジー効果が期待できる分野での新規事業にも積極的に挑戦しています。急速に進むデジタル化を背景に急伸しているビデオ・オン・デマンドによる映像配信や、大きな可能性を秘めている携帯電話への新規サービスなど、新しいアニメーションビジネスを開拓し、事業領域を拡大していきます。



未来に向かって、力強く走りだす 東映アニメーションにご期待ください

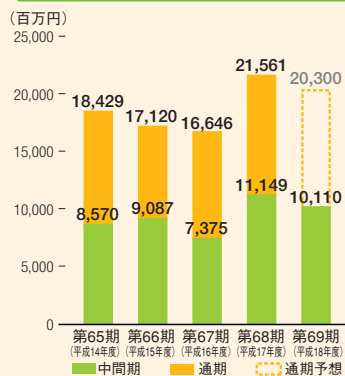
アニメーション業界は国内外から高い注目を集め、ビジネスチャンスの増大が見込まれるものの、その注目の高さゆえに激しい競争が続くことが予想されます。こうしたなか当社は、主力である子ども層向け作品により一層注力する一方で、大きな市場として成長したヤング層向け作品などにおいても、魅力的な作品を製作していきます。また新作とあわせて、日本最大・世界有数を誇るライブラリー作品のさらなる活性化を進めていきます。

当社は今年、創立50周年を迎えることができました。これも株主の皆様の日頃のご支援の賜物であると深く御礼申し上げます。これまでの実績に甘えることなく、従業員一丸となって、より一層事業に取り組んでまいります。

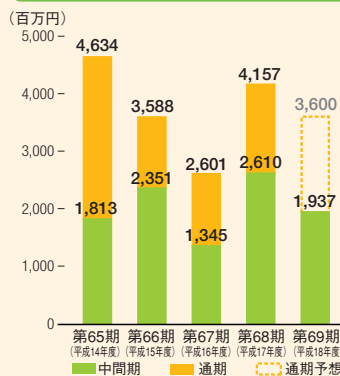
株主の皆様におかれましては、なにとぞ今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年12月

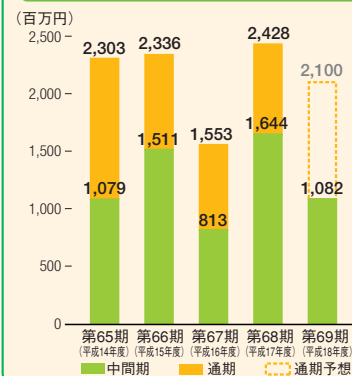
連結売上高推移



連結経常利益推移



連結中間(当期)純利益推移



よりグローバルなビジネスの展開へ

当社は創立当初から海外市場に積極的に挑戦してきました。

初の劇場作品「白蛇伝」は、日本での公開後、世界各国に輸出されて多数の映画賞を受賞しました。

その後も挑戦を続け、70年代にはヨーロッパで「キャンディ・キャンディ」、「グレンダイザー」が、アジアで「一休さん」が大ヒットし、海外市場を開拓しました。

そして、90年代には、アメリカに本格上陸し、「ドラゴンボール」、「セーラームーン」、「デジモン」の大ヒットで、全世界的に日本のアニメーションが注目を集めるようになりました。

躍進する世界の“TOEI ANIMATION”

1997年に香港、2004年にロサンゼルスとパリに現地法人を設立し、日本を含めた4拠点で戦略的に海外展開を図るための体制を構築しました。これにより、作品を熟知した当社スタッフによるきめ細かい営業活動が可能になりました。また、現地での直接ビジネスにより、市場環境を肌で感じ、市場動向を的確に把握することが可能になりました。アメリカでは、現地法人の設立後、放送本数が増加し、収益機会が格段に増加しています。さらに、今年7月には、今後飛躍的な成長が期待される中国市場の調査のため、上海に駐在員事務所を開設しました。

海外との合作による高い競争力を確保

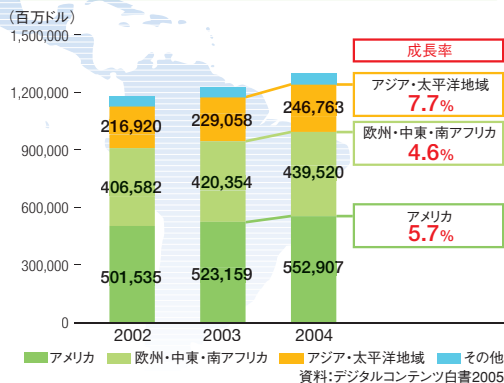
世界展開を前提とした作品づくりをさらに推進するため、国境を越えた合作にも積極的に取り組んでいます。これによって企画段階から世界展開を視野に入れた作品づくりができるだけでなく、海外企業とこれまで以上に強固で良好な関係を築くことができます。第1弾として、Cartoon Network (米) とアニプレックス (日) との3社共同製作で「出ましたっ！パワパフガールズZ」を展開中です。これに続き、ウォルト・ディズニー・テレビジョン・インターナショナル ジャパンとCGと実写を融合させた短編「ロボディーズ (仮)」を準備中です。



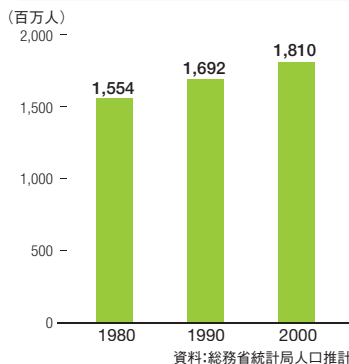
「出ましたっ！パワパフガールズZ」
土) 7:00～ テレビ東京系列で放送中

世界のコンテンツ市場規模

(映像・音楽・ゲーム・出版・インターネット・情報サービスなど)

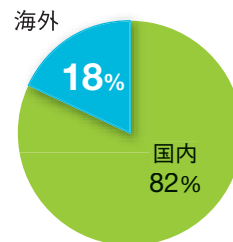


世界の子ども (0~14歳) の数



当社の国内・海外別売上構成比

※当中間期の実績



日韓発・世界規模の人気作品を目指す！

次なる海外企業との合作として、韓国の公営テレビ放送局である韓国放送公社 (KBS) と、新作テレビシリーズ「太極千字文 (たいちせんじもん)」の共同製作を決定いたしました。

「太極千字文」は、東アジアで広く使われている「漢字」をモチーフにした冒険アクション作品です。日本と韓国、話す言葉も文化も異なる両国ですが、「漢字」という共通の文字をモチーフにした作品で、日韓の架け橋となるコラボレーション作品を創り上げます。また最近欧米では、「漢字」はその独特な形状からファッションとしても取り上げられ若者の間で人気となっており、この作品もアジアのみならず全世界的な展開が期待できます。まずは韓国で来年の春の放送開始を目指し、そして世界展開につなげていきます。



日韓合作作品
「太極千字文 (たいちせんじもん)」

連結セグメントの状況

当中間期、当社グループは国内外で「ドラゴンボール」、「ふたりはプリキュア」、「ワンピース」、「デジモンセイバーズ」を主としたテレビ・映画・DVD・インターネットなどへの映像製作・販売事業、キャラクター商品などの版權事業、商品販売・キャラクターショーなどの関連事業を戦略的に展開いたしました。

この結果、当中間期の売上高は101億10百万円（前年同期比9.3%減）、経常利益は19億37百万円（前年同期比25.8%減）、当中間純利益は10億82百万円（前年同期比34.2%減）となりました。

セグメント別事業概要 ●●●

映像製作・販売事業

アニメーションを製作し、国内外のテレビ・劇場・DVDなどで放送・公開・販売

劇場アニメ部門では、3月に「ワンピース」の劇場作品を公開いたしました。当中間連結会計期間はこの1本のみにとどまり、公開本数が減少したため、売上高は77百万円（前年同期比89.3%減）と大幅な減収となりました。

テレビアニメ部門では、「デジモンセイバーズ」、「エア・ギア」、「出ましたっ!パワパフガールズZ」など新作が増加し、ラインナップの充実によって売上高は16億68百万円（前年同期比31.7%増）と大幅な増収となりました。

コンテンツ事業部門では、「ふたりはプリキュア」シリーズなどの新作DVDに加え、特にライブラリー作品の「ドラゴンボールZ」の単巻DVDや劇場版DVD-BOXの好調な推移により、売上高は32億71百万円（前年同期比9.5%増）と増収となりました。

海外映像部門では、「ドラゴンボール」シリーズが世界各地で好調に稼働し、北米では「デジモンアドベンチャー」、アジアでは「ワンピース」などが好調に稼働したため、売上高は13億10百万円（前年同期比11.6%増）と大幅な増収となりました。

以上により、当事業の売上高は66億7百万円（前年同期比2.5%増）となりました。



「ONE PIECE THE MOVIE
カラクリ城のメカ巨兵」
2006年3月4日劇場公開



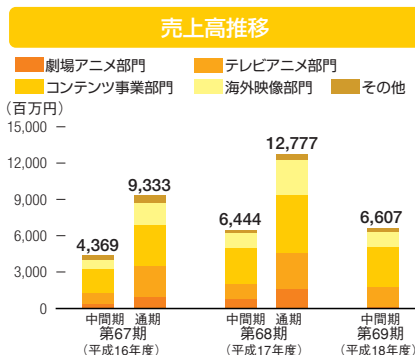
「デジモンセイバーズ」
日) 9:00～ フジテレビ系列



「ドラゴンボール劇場版DVD-BOX」
2006年4月14日発売



「エア・ギア」
2006年4月4日～9月26日
テレビ東京系列



「ONE PIECE」
アメリカ・ドイツ・台湾など

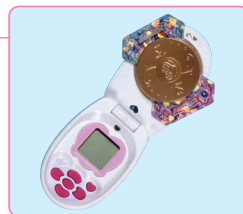
著作権事業

キャラクターの著作権を活用して、
さまざまなメーカーに商品化権を許諾

国内著作権部門では、「ドラゴンボールZ」や「ふたりはプリキュア Splash☆Star」、「デジモンセイバーズ」を中心に展開し、特に「ドラゴンボールZ」、「デジモンセイバーズ」のゲームソフトやデータカードダスが好調に推移したため、売上高は20億41百万円（前年同期比8.8%増）と増収となりました。

海外著作権部門では、前中間連結会計期間に計上した「ドラゴンボール」の北米でのテレビゲームにおける大口の取引に相当するものが当中間連結会計期間にはなく、また新規に投入した作品も著作権収入を得るまでには至っていないため、売上高は4億67百万円（前年同期比66.1%減）となり、大幅な減収となりました。

以上により、当事業の売上高は25億8百万円（前年同期比22.9%減）となりました。

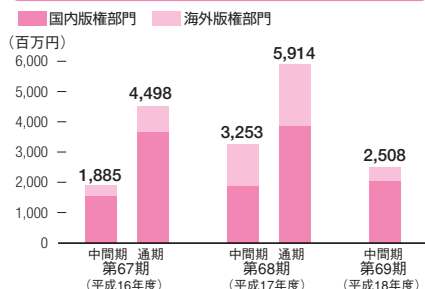


「ふたりはプリキュア Splash☆Star」
ミックスコミュニケーション



「ドラゴンボールZ」
ゲームソフト「Sparking! Neo」
データカードダス

売上高推移



※数値はセグメント間取引を含んでおります。



「デジモンセイバーズ」
ゲームソフト「デジモンストーリー」

関連事業

キャラクター商品の企画・開発、
キャラクターショーなどのイベントの企画・運営

商品販売部門では、劇場公開作品の公開本数の減少により、それらに関連したタイアップによる商品展開などの大口の取引が少なかったため、売上高は6億26百万円（前年同期比34.7%減）となり、大幅な減収となりました。

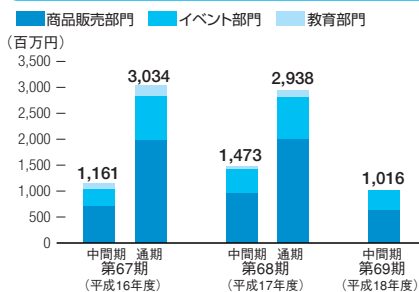
イベント部門では「ふたりはプリキュア Splash☆Star」のキャラクターショーなどが好調であったものの、全体としては依然として厳しい事業環境により、売上高は3億79百万円（前年同期比14.9%減）と大幅な減収となりました。

以上により、当事業の売上高は10億16百万円（前年同期比31.1%減）となりました。



「ワンピース」
イベント「迷路島の大冒険!」

売上高推移



※数値はセグメント間取引を含んでおります。



「ふたりはプリキュア
Splash☆Star」
キャラクターショー

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科目	当中間期 (平成18年9月30日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	17,120	17,514
固定資産	14,776	16,038
資産合計	31,896	33,552
(負債の部)		
流動負債	4,534	5,480
固定負債	1,256	1,740
負債合計	5,791	7,221
(少数株主持分)		
少数株主持分	—	312
(資本の部)		
資本金	—	2,867
資本剰余金	—	3,409
利益剰余金	—	17,569
その他有価証券評価差額金	—	2,191
為替換算調整勘定	—	△15
自己株式	—	△3
資本合計	—	26,018
負債、少数株主持分及び資本合計	—	33,552
(純資産の部)		
株主資本	24,316	—
評価・換算差額等	1,453	—
少数株主持分	335	—
純資産合計	26,105	—
負債純資産合計	31,896	—

IR情報のご案内

当社の詳細情報につきましては、ホームページの「IR情報」をご覧ください。

また、IR情報やプレスリリースなどを電子メールでご案内する情報配信サービスも行っていますので、ご希望の方はIR情報の「メルマガ登録」よりご登録ください。

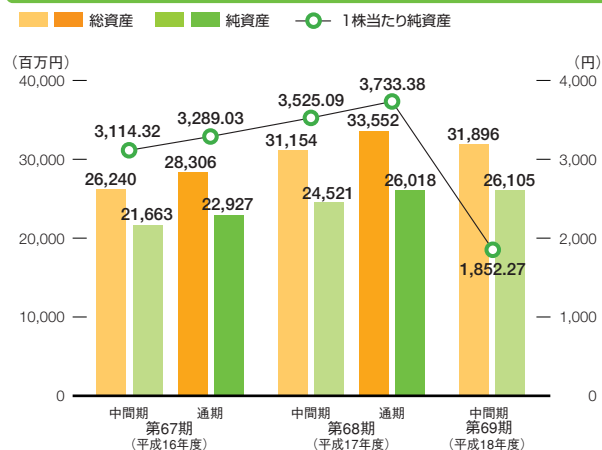
IR情報：<http://www.toei-anim.co.jp/corporate/ir/>

中間連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科目	当中間期 (平成18年4月1日～ 平成18年9月30日)	前中間期 (平成17年4月1日～ 平成17年9月30日)
売上高	10,110	11,149
売上原価	6,420	7,323
売上総利益	3,689	3,826
販売費及び一般管理費	1,869	1,390
営業利益	1,820	2,436
営業外収益	121	177
営業外費用	3	3
経常利益	1,937	2,610
特別損失	—	37
税金等調整前中間純利益	1,937	2,572
法人税、住民税及び事業税	822	908
少数株主利益	33	19
中間純利益	1,082	1,644

総資産／純資産／1株当たり純資産



（注）平成18年8月1日付で1対2の株式分割を行いました

中間連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

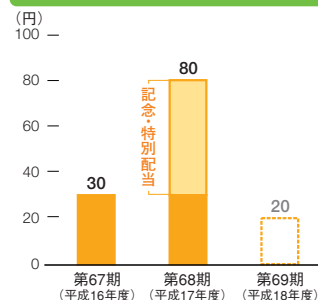
科目	当中間期 （平成18年4月1日～ 平成18年9月30日）	前中間期 （平成17年4月1日～ 平成17年9月30日）
営業活動による キャッシュ・フロー	△497	2,481
投資活動による キャッシュ・フロー	△241	△145
財務活動による キャッシュ・フロー	△565	△208
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△30	80
現金及び現金同等物の増減額	△1,335	2,207
現金及び現金同等物の期首残高	12,266	12,461
現金及び現金同等物の 中間期末残高	10,930	14,669

1株当たり利益配当金

前期におきましては、1株につき80円を配当いたしました。これは創立50周年を迎えたことや過去最高の売上高200億円を突破したことから、普通配当30円に記念配当及び特別配当50円と増配したことによるものです。

なお、当期の配当金については、1株当たり20円を予定しています。これは、平成18年8月1日の株式分割前の1株当たり40円に相当し、前期の普通配当30円に対して10円の実質増配になります。

1株当たり利益配当金の推移



中間連結株主資本等変動計算書

当中間期（平成18年4月1日～平成18年9月30日）

（単位：百万円）

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日残高	2,867	3,409	17,569	△3	23,843	2,191	—	△15	2,175	312	26,331
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当（注）			△559		△559						△559
役員賞与（注）			△49		△49						△49
中間純利益			1,082		1,082						1,082
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額合計（純額）						△741	34	△15	△722	22	△699
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	473	—	473	△741	34	△15	△722	22	△226
平成18年9月30日残高	2,867	3,409	18,042	△3	24,316	1,449	34	△30	1,453	335	26,105

（注）平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります

中間単体財務諸表

中間貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科目	当中間期 (平成18年9月30日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	14,814	15,655
固定資産	13,235	14,131
資産合計	28,050	29,786
(負債の部)		
流動負債	4,052	5,027
固定負債	1,012	1,516
負債合計	5,065	6,544
(資本の部)		
資本金	—	2,867
資本剰余金	—	3,409
利益剰余金	—	15,064
その他有価証券評価差額金	—	1,901
自己株式	—	△0
資本合計	—	23,242
負債資本合計	—	29,786
(純資産の部)		
株主資本	21,747	—
評価・換算差額等	1,237	—
純資産合計	22,985	—
負債純資産合計	28,050	—

中間損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科目	当中間期 (平成18年4月1日～ 平成18年9月30日)	前中間期 (平成17年4月1日～ 平成17年9月30日)
売上高	9,649	10,574
売上原価	6,392	7,228
売上総利益	3,256	3,345
販売費及び一般管理費	1,566	1,147
営業利益	1,690	2,198
営業外収益	88	79
営業外費用	3	3
経常利益	1,774	2,274
特別損失	—	37
税引前中間純利益	1,774	2,236
法人税、住民税及び事業税	734	845
法人税等調整額	34	—
中間純利益	1,005	1,390
前期繰越利益	—	9,738
中間未処分利益	—	11,128

中間株主資本等変動計算書

当中間期（平成18年4月1日～平成18年9月30日）

（単位：百万円）

	株主資本								評価・換算差額等				純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計		
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金							利益 剰余金 合計	
					別途 積立金	繰越利益 剰余金							
平成18年3月31日残高	2,867	3,409	3,409	94	3,200	11,770	15,064	△0	21,341	1,901	—	1,901	23,242
中間会計期間中の変動額													
剰余金の配当（注）						△559	△559		△559				△559
役員賞与（注）						△40	△40		△40				△40
別途積立金（注）					300	△300	—		—				—
中間純利益						1,005	1,005		1,005				1,005
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額（純額）									△697		34	△663	△663
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	300	105	405	—	405	△697	34	△663	△257
平成18年9月30日残高	2,867	3,409	3,409	94	3,500	11,876	15,470	△0	21,747	1,203	34	1,237	22,985

（注）平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります

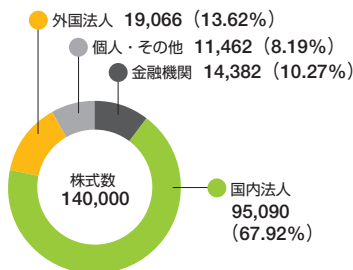
株式の状況

(平成18年9月30日現在)

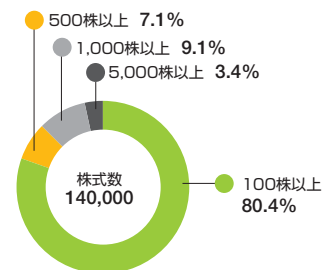
発行済株式総数 14,000,000株

株主数 2,382名

所有者別株式分布状況 (単位: 百株)



所有株数別分布状況



株価・出来高の推移



(2006年8月1日付で1対2の株式分割を行いました)

株主優待制度

**株主優待オリジナルの
「キャラクターQUOカード」
を合計4作品 (2,000円相当) 進呈**

ご所有株式数	100株以上で	2,000円相当
ご所有株式数	500株以上で	4,000円相当
ご所有株式数	1,000株以上で	6,000円相当
ご所有株式数	5,000株以上で	10,000円相当
ご所有株式数	10,000株以上で	20,000円相当

優待の
ポイント

新作の人気アニメ、なつかしの名作が2枚ずつ、計4枚が1セットです。
絵柄は毎年変更し、新作は株主優待限定の描きおろしデザインです。

2006年進呈のQUOカード

描きおろし



ふたりはプリキュア Splash☆Star
日) 8:30~ ABC・テレビ朝日系列で放送中



ガリバーの宇宙旅行
1965年劇場公開



デジモンセイバース
日) 9:00~ フジテレビ系列で放送中



わんわん忠臣蔵
1963年劇場公開

※平成18年8月1日付の株式分割による優待制度の変更はございません

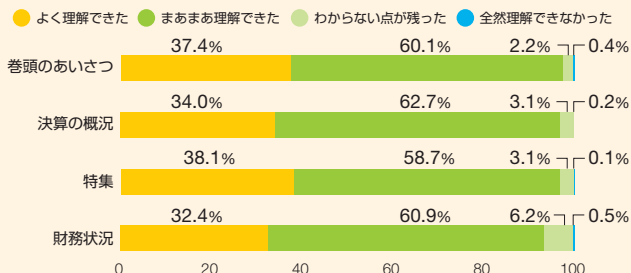


今回より株主のみなさまとのコミュニケーションを図ることを目的に、新たなページを設けました。このページでは、みなさまのご意見やご要望にお応えしながら、楽しんでいただける情報を発信していきます。どうぞご期待ください。

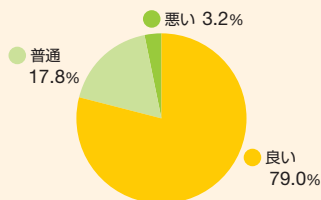
株主さまアンケート結果

第68期事業報告書で実施しました株主さまアンケートの結果をお知らせいたします。

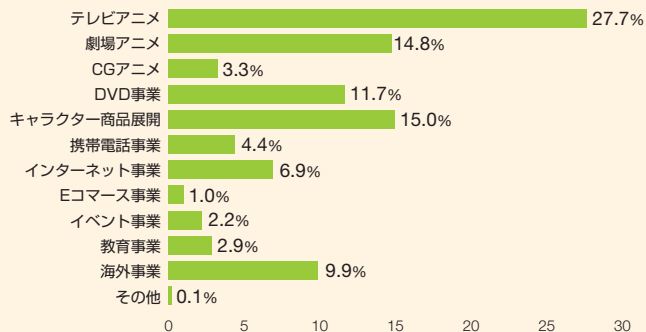
Q1. 今回の事業報告書はご理解いただけましたか？



Q2. 当社の株主優待（QUOカード）のご感想をお聞かせください



Q3. 当社のどの事業に期待していますか？（複数回答）



ご質問・ご要望に対する回答



オリジナル劇場アニメを充実させて欲しい



こうしたみなさまの熱いご要望が多数寄せられています。

当社では、みなさまの声にお応えするために劇場オリジナル作品の企画を進行させております。発表まであと少しお時間をいただきますが、ぜひご期待ください。



業績予想が保守的過ぎるのでは？



当社の業績は業績予想を公表する段階で、想定できる要因はすべて盛り込んで発表しておりますが、市場環境と作品のヒットによって、大きく左右されることがあります。その際は、適宜適切な情報の開示をしていきます。



過去の株主優待QUOカードを入手したいのですが



当社ならではの株主優待として、作品のQUOカードを進呈させていただき、大変好評をいただいております。しかし株主優待オリジナル企画ですので、毎回その期にお配りする数しか作成しておりません。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

この冬いよいよ劇場公開される映画「ふたりはプリキュア Splash☆Star」、「デジモンセイバーズ」。
それぞれのプロデューサーにインタビューを行いました。

「映画 ふたりはプリキュア Splash☆Star
チクタク危機一髪!」

A1. 絆の強さ、大切な人を思う強い気持ち。プリキュアは「技がすごいから強い」のではなく、「人を思いやる気持ちが大きいから強い」のです。だからこそひとりでは立ち向かえない困難にも立ち向かえる。そんな思いを子どもたちにも感じ取ってもらえたら、と思います。

A2. 劇中に登場する「無限の時計」。いかにスケール大きく迫力をだすか、監督、美術監督も含めかなり会議を重ねました。島根県に巨大な砂時計があると聞き、実際に砂浜を歩き、肌で感じてきた巨大さは映像に反映されていると思います。



A3. 「ふたりはプリキュア Splash☆Star」としては初めての映画化です。スペシャルゲストにうちやえゆかさん、向井亜紀さんを迎えて描いた、咲と舞ふたりの大活躍する姿に大いに笑い、泣いて、応援してください! 大スクリーンならではの晴れ姿をぜひご覧ください!



企画営業部 **鷲尾 天**

1998年入社、「金田一少年の事件簿」、「ワンピース」のアシスタントプロデューサーを経て、「キン肉マンII世」、「釣りバカ日誌」、「ふたりはプリキュア」シリーズなどの作品のプロデューサーを担当。



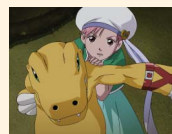
Q1. 作品を通じて伝えたいメッセージ
Q2. 製作のウラ話
Q3. 株主さまへのメッセージ



「デジモンセイバーズ THE MOVIE
究極パワー! バーストモード発動!!」

A1. ひとりひとりの力は小さくても、仲間を信じ、力を合わせることによって大きな力を発揮することが可能になること。どんな逆境に陥っても、あきらめことなくがんばり続けることが奇跡を呼ぶ源となること。誰でも大きな可能性をもっているのだということ。

A2. 登場キャラすべてにたっぷり見せ場を作りたい、この答えを見つけるため、スタッフ総出で連日連夜の会議を行い、検討したプロットの数100を超えました。



その甲斐あって映画ならではのスペシャルなエピソードを生み出すことができました。

A3. テレビシリーズとは違ったスケール感と熱気をもったフィルムに仕上がっております。監督がこだわりにこだわったアクションシーンは香港映画にも負けない迫力。劇場版ならではの画面をご堪能ください。



企画営業部 **梅澤 淳稔**

1981年入社、「北斗の拳」、「ドラゴンボールZ」、「GS美神」、「ご近所物語」などの作品のディレクターを経て、「怪～ayakashi～」、「ワンピース」、「デジモンセイバーズ」などの作品のプロデューサーを担当。

会社概要

(平成18年9月30日現在)

商 号	東映アニメーション株式会社
英 文 社 名	TOEI ANIMATION CO., LTD.
本 社	〒178-8567 東京都練馬区東大泉二丁目10番5号 TEL 03-3978-3111 (代表)
新 宿 オ フ ィ ス	〒162-0831 東京都新宿区横寺町58番地
東映アニメーション研究所	〒178-0063 東京都練馬区東大泉二丁目11番32号
従 業 員 数	連結：487名 単体：288名
上 場 市 場	JASDAQ (コード：4816)
ホ ー ム ペ ー ジ	http://www.toei-anim.co.jp

株主メモ

商 号	東映アニメーション株式会社
証 券 コ ー ド	4816
決 算 期	毎年3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年6月に開催いたします。
基 準 日	毎年3月31日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。
利 益 配 当 金	毎年3月31日現在の株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
株 主 名 簿 管 理 人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同 事 務 取 扱 所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公 告 方 法	電子公告 http://www.toei-anim.co.jp

お知らせ

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

- フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付:自動音声案内)
- ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

©ABC・本郷あきよし・フジテレビ・尾田栄一郎・集英社・2006 Cartoon Network, Aniplex & TV Tokyo・雷句誠・小学館・KBS/DONGSEO UNIV./ICONIX/JM ANIM.・「2006 ワンピース」製作委員会・バードスタジオ・大暮維人・講談社・マーベラスエンターテイメント・エイベックス・エンタテインメント・BANDAI 2003・2006 NBGI・2006 映画ふたりはプリキュアS☆S製作委員会・2006 DSTM製作委員会・東映アニメーション

100



本誌は、地球にやさしい再生紙および植物性大豆油インキを使用しています。